

清飲検協会報

【目次】

2025年12月分及び2025年平均消費者物価指数	2
食品製造における微生物安全保証（前編） -安全保証理論の構築、特に芽胞形成細菌制御を中心に-	5
家計支出から見た全国1世帯当たりの食料費支出金額	8
炭酸飲料 JAS 格付実績	9
果実飲料の依頼検査実績	10
炭酸飲料 2025年月別・容器別 JAS 格付数量	11
果実飲料 2025年月別・容器別 JAS 格付数量（直接飲料）	12
炭酸飲料区分別・容器別の格付数量	13

編集 一般財団法人 日本清涼飲料検査協会

〒108-0023 東京都港区芝浦 2-17-13 保坂興産ビル TEL 03-3455-6851 FAX 03-3455-6852

<http://www.seiryouken.jp> E-mail info@seiryouken.jp

2020年基準 消費者物価指数

全国 2025年(令和7年)12月分及び2025年(令和7年)平均

1 2025年(令和7年)12月分

◎ 概況

- (1) 総合指数は2020年を100として113.0
前年同月比は2.1%の上昇 前月比(季節調整値)は0.1%の下落
- (2) 生鮮食品を除く総合指数は112.2
前年同月比は2.4%の上昇 前月比(季節調整値)は0.1%の下落
- (3) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は111.5
前年同月比は2.9%の上昇 前月比(季節調整値)は0.1%の上昇

図1 総合指数の動き

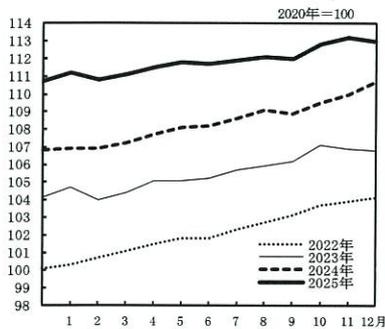


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

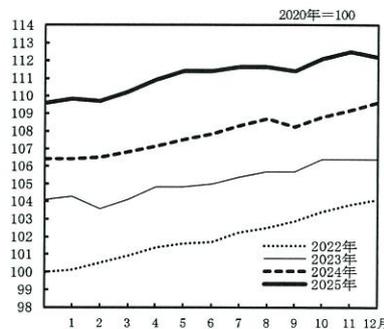


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き

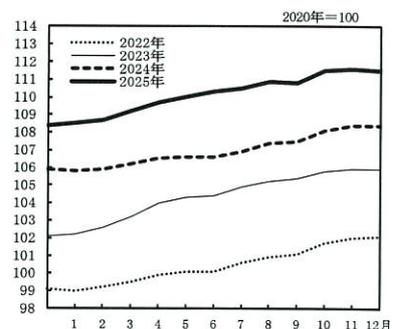


表1 総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合の指数及び前年同月比

2020年=100

		2024年		2025年											
原数値		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
総合	指数	110.7	111.2	110.8	111.1	111.5	111.8	111.7	111.9	112.1	112.0	112.8	113.2	113.0	
	前年同月比(%)	3.6	4.0	3.7	3.6	3.6	3.5	3.3	3.1	2.7	2.9	3.0	2.9	2.1	
生鮮食品を除く総合	指数	109.6	109.8	109.7	110.2	110.9	111.4	111.4	111.6	111.6	111.4	112.1	112.5	112.2	
	前年同月比(%)	3.0	3.2	3.0	3.2	3.5	3.7	3.3	3.1	2.7	2.9	3.0	3.0	2.4	
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	指数	108.4	108.5	108.7	109.2	109.7	110.0	110.3	110.5	110.9	110.8	111.5	111.6	111.5	
	前年同月比(%)	2.4	2.5	2.6	2.9	3.0	3.3	3.4	3.4	3.3	3.0	3.1	3.0	2.9	

表2 総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合の前月比(季節調整値)

2024年 2025年

季節調整値		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総合	前月比(%)	0.7	0.4	0.0	0.2	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	-0.1
生鮮食品を除く総合	前月比(%)	0.5	0.3	0.0	0.3	0.4	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	-0.1
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	前月比(%)	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.0	0.4	0.2	0.1

注) 季節調整値は、毎年12月結果公表時に、過去に遡って改定している。

4 全国（年平均）

2 2025年（令和7年）平均

◎ 概況

- | | |
|------------------------------|-------------|
| (1) 総合指数は2020年を100として111.9 | 前年比は3.2%の上昇 |
| (2) 生鮮食品を除く総合指数は111.2 | 前年比は3.1%の上昇 |
| (3) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は110.3 | 前年比は3.0%の上昇 |

図7 指数の動き

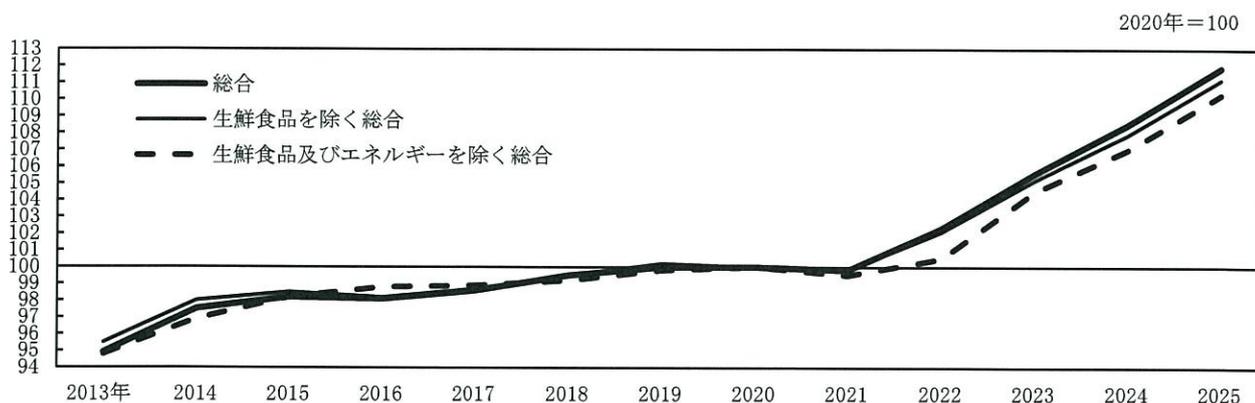


図8 前年比の動き

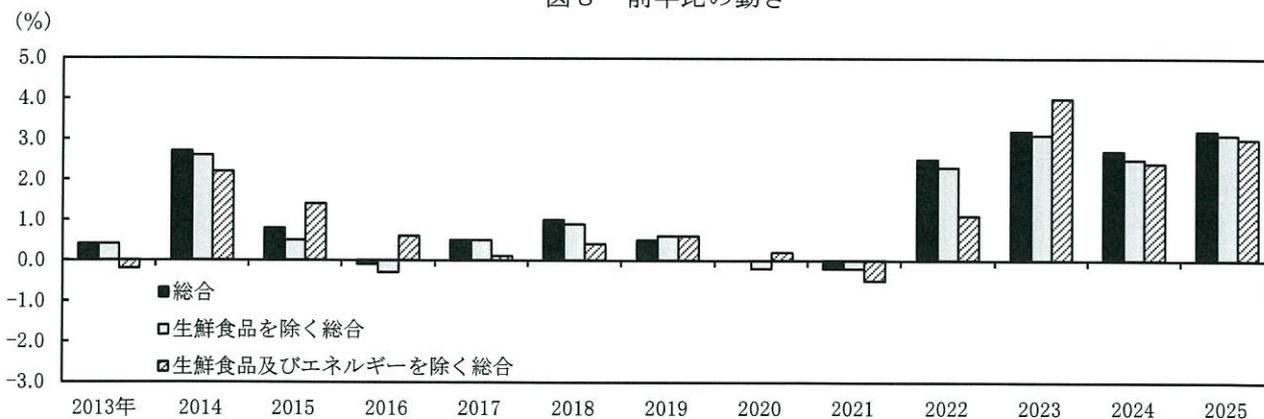


表7 総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合の指数及び前年比

		2020年=100												
		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総合	指数	94.9	97.5	98.2	98.1	98.6	99.5	100.0	100.0	99.8	102.3	105.6	108.5	111.9
	前年比 (%)	0.4	2.7	0.8	-0.1	0.5	1.0	0.5	0.0	-0.2	2.5	3.2	2.7	3.2
生鮮食品を除く総合	指数	95.5	98.0	98.5	98.2	98.7	99.5	100.2	100.0	99.8	102.1	105.2	107.9	111.2
	前年比 (%)	0.4	2.6	0.5	-0.3	0.5	0.9	0.6	-0.2	-0.2	2.3	3.1	2.5	3.1
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	指数	94.8	96.9	98.2	98.8	98.9	99.2	99.8	100.0	99.5	100.5	104.5	107.0	110.3
	前年比 (%)	-0.2	2.2	1.4	0.6	0.1	0.4	0.6	0.2	-0.5	1.1	4.0	2.4	3.0

2 全 国

◎ 前年同月との比較（10大費目）

表3 10大費目指数、前年同月比及び寄与度

2020年=100

原数値	食料			住居	光熱水道	家具家事用品	被服及び履物	保健医療	交通通信	教育	教養娯楽	諸雑費			
	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合												
指数	113.0	112.2	111.5	128.8	132.3	128.2	104.5	117.7	121.1	112.7	104.5	100.0	95.6	116.8	106.1
前年同月比(%)	(2.9)	(3.0)	(3.0)	(6.1)	(1.5)	(7.0)	(0.9)	(3.0)	(1.8)	(2.3)	(0.8)	(3.3)	(-5.6)	(2.3)	(0.6)
寄与度		(2.83)	(2.64)	(1.76)	(0.07)	(1.69)	(0.19)	(0.21)	(0.07)	(0.08)	(0.04)	(0.44)	(-0.16)	(0.22)	(0.04)
寄与度差		2.26	2.51	1.49	-0.13	1.62	0.20	-0.10	0.07	0.07	0.03	0.26	-0.16	0.22	0.04
		-0.57	-0.13	-0.28	-0.20	-0.07	0.01	-0.31	-0.01	-0.01	0.00	-0.18	0.00	0.00	0.01

注) ()は、前月の前年同月比及び寄与度。各寄与度は、総合指数の前年同月比に対するものである。

[総合指数の前年同月比に寄与した主な内訳]

10大費目	中分類、前年同月比(寄与度)	品目、前年同月比(寄与度)
上昇		
食料	穀類 14.7%(0.38)	…… うるち米(コシヒカリを除く) 34.3%(0.20) など
	菓子類 8.6%(0.23)	…… チョコレート 25.8%(0.11) など
	調理食品 5.7%(0.22)	…… おにぎり 13.1%(0.02) など
	外食 4.0%(0.19)	…… すし(外食) 7.7%(0.03) など
	飲料 7.7%(0.14)	…… コーヒー豆 47.8%(0.06) など
	肉類 4.7%(0.12)	…… 鶏肉 9.5%(0.04) など
	生鮮魚介 8.3%(0.11)	…… ぶり 16.9%(0.04) など
	乳卵類 7.8%(0.11)	…… 鶏卵 12.6%(0.04) など
住居	設備修繕・維持 3.6%(0.12)	…… 火災・地震保険料 3.5%(0.03) など
交通・通信	通信 6.2%(0.18)	…… 通信料(携帯電話) 10.7%(0.14) など
教養娯楽	教養娯楽サービス 2.3%(0.12)	…… 宿泊料 7.8%(0.09) など
下落		
食料	生鮮野菜 -7.1%(-0.17)	…… キャベツ -54.7%(-0.10) など
光熱・水道	電気代 -2.3%(-0.09)	
教育	授業料等 -9.6%(-0.18)	…… 高等学校授業料(公立) -94.1%(-0.15) など

○ 前月との比較（10大費目）

表4 10大費目の前月比及び寄与度

原数値	食料			住居	光熱水道	家具家事用品	被服及び履物	保健医療	交通通信	教育	教養娯楽	諸雑費			
	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合												
前月比(%)	-0.2	-0.2	-0.1	0.1	1.3	-0.1	0.1	-0.1	-1.3	-0.5	-0.1	-1.0	0.0	0.0	0.0
寄与度		-0.22	-0.10	0.03	0.06	-0.03	0.01	-0.01	-0.05	-0.02	-0.01	-0.13	0.00	0.00	0.00

注) 各寄与度は、総合指数の前月比に対するものである。

◇ ラスパイレス連鎖基準方式による指数(参考指数)の前年同月比

		2024年 2025年												
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総合	前年同月比(%)	3.6	3.9	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	3.1	2.7	3.0	3.0	2.9	2.1
生鮮食品を除く総合	前年同月比(%)	3.0	3.2	3.0	3.1	3.4	3.5	3.2	3.0	2.6	3.0	3.0	3.0	2.3
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	前年同月比(%)	2.3	2.4	2.5	2.7	2.8	3.0	3.2	3.3	3.1	2.9	3.0	2.9	2.7

業界の動向

食品製造における微生物安全保証（前編）

—安全保証理論の構築、特に芽胞形成細菌制御を中心に—

公益社団法人 日本技術士会 登録 食品産業関連技術懇話会

MicroGenesis 創成 AI 研究所（旧ナノマイクロバイオ研究所—中西技術士事務所）

農学博士、技術士（生物工学部門） 中西 弘一

0. 背景と経緯

著者は、醸造及び飲料会社勤務時代と、退職後技術士として現在に至るまで、飲料を始め、食品全般にわたり、微生物制御に関わってきた。特に直近の12年間は毎年「芽胞菌対策研究会」を主催してきて、毎年3、4回「芽胞菌制御セミナー」を開催している。また、延べ約80社にわたる食品会社の技術アドバイスを行ない、その経験と実績から「微生物安全保証理論」を構築するに至った。

食品製造には2つの大きな技術課題がある。1つ目は「食品の安全と安心」の確立。食中毒や微生物による製品事故を起さず、消費者に安全と安心をもたらすような食品製造体制と品質管理体制を確立する。2つ目は地球環境の負荷を軽減するため「食品ロスの減少」である。消費期限や賞味期限の延長をはかることは食品ロス対策への一助である。

1. 微生物安全保証とは何か？その背景

食品には大量生産、大量消費を前提とした製造、流通、販売形態がとられ、利便性やコスト効率の良いシステムが求められ、発達してきている。青果（野菜・果物）、鮮魚、精肉などの生鮮食品、惣菜類のような前段階の簡単な調理（下処理や調味など）を施された半加

工食品、そして、何らかの加工を施した加工食品のように、非常に多岐にわたる。一口に食品といってもその種類は非常に多く、それらの微生物制御についても一括して語ることは非常に難しい。食品の安全性を保証するためには体系的な考え方を構築していく必要がある。

これには食品製造工程の管理という内的な対応の他、需要の変化に応じて短期間で増産、減産への対応、流通の厳格な温度管理や迅速さを求める外的な対応がある¹⁾。

微生物は生きて食品に混在した場合、時間経過に伴い「増える」あるいは「減る」といった菌数の変化を伴う。微生物の場合、対象となる食品全体には均一に分布せず、局在しているのが一般的である。生産時点では十分に微生物数を減少したはずでも、流通過程で温度管理不備が生じれば、微生物数が増加し、結果として食中毒を引き起こす場合もある。検査時のサンプル調製方法も、微生物数を的確に評価するためには重要である。このように食品製造の微生物汚染は、一般的にブラックボックスが多い²⁾。その概念を図1に示す。

対象物と微生物の多様性と不均一性から工学的要素が取り入れにくい。定性的な評価になるので定量的な評価や科学的理論の裏付けに基づき、5W+1Hで評価を考えなければならない（図2参照）。

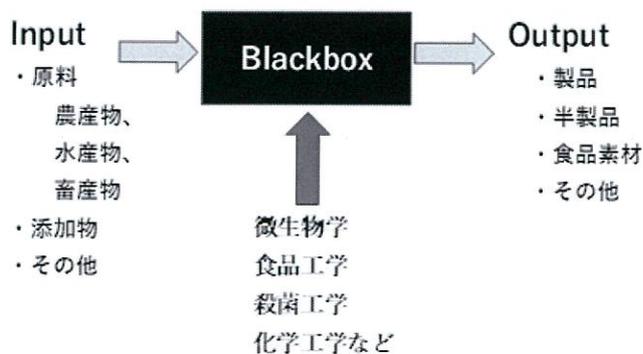


図1 微生物制御における Blackbox の存在

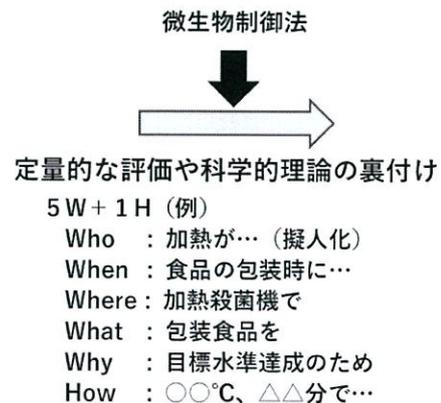


図2 定量的な評価や科学的理論の裏付け

2. HACCP や ISO22000 と微生物安全保証との立ち位置の違い

従来の HACCP や ISO22000 は食品衛生法で定められた衛生管理手法や行動規範である³⁾。詳細な説明は省くが、これら衛生管理の前提は 5S (整理・整頓・清掃・清潔・習慣) に始まる。特に重要な工程をマニュアル化し、製品説明書、工程表、危害分析表のように作成する。これらは食品の微生物制御に対する必要条件である。それに対して「微生物安全保証の考え方」は、基本的な微生物に対する安全を保障するための食品の基本設計や製造法の考え方を示し、必要条件に対する充分条件である。

3. 微生物安全保証における芽胞菌の重要性

微生物安全保証の考え方で重要な危害菌は芽胞菌である。芽胞菌はグラム陽性の細菌で主に *Bacillus* 属や *Clostridium* 属が含まれる、生育条件が悪くなった状態で生存のため芽胞を作成し、これが、耐熱性、耐 UV 性そし

て耐化学性の耐久性をし、殺菌や増殖抑制上やっかいな汚染菌となってくる。厚労省がその HP で報告している食中毒の原因菌の件数で、年毎のトレンドにより、菌種の変化はあるが、毎年一定の件数発生しているのがセレウス菌 (*Bacillus cereus*) とウェルシュ菌 (*Clostridium perfringens*) の芽胞菌であることは警戒に値する。

4. 「微生物安全保証」の目的

定量的に数値で微生物安全保証 (特に対象は耐熱性の高い芽胞菌) の考え方を構築し、食品の微生物安全性を担保する科学的根拠を提案する。通常加熱殺菌の F 値*は 5D 相当が使われている⁴⁾。F=5D^{†5)} のように、F=nD で表される。微生物安全保証の考え方では、F 値を加熱殺菌に限らず、非加熱殺菌も顧慮した場合、微生物増殖抑制要因による生菌数の減少も D 値[‡]に換算して、トータルの D 値の計を F 値とする。

最終的には F=5D~7D になるようにし、製品 1 個当たり、 $1/10^5 \sim 10^7$ の微生物事故の発生危険率で管理していく。

* F 値：加熱殺菌の強さを数値化した指標。基準温度で何分間加熱したのと同じ殺菌効果を示す。国際的な基準温度は 121.1℃ (250℉)。

† F=5D：微生物数を $1/10^5$ (10 万分の 1) まで低減させる殺菌強度を示す。

‡ D 値：ある一定の条件 (温度など) で菌数を 1/10 に減らすのに必要な時間。

5. 食品における微生物の増殖抑制要因について

食品製造の際に、利用できる微生物増殖抑制要因は、表1に示すように、大きく8項目に分類される。食品製造時にこれらの増殖抑制要因を利用して、微生物制御を行っている。比較的簡便である加熱処理が最もよく利用されている。食品の製造工程での加熱加工、調理そして加熱殺菌として利用され、汚染微生物の殺滅や減少を図ることができる。

食品の香味を良くし、保存性を高める方法として、醸造や発酵がある。醸造や発酵食品や飲料は、有用な微生物や酵素の働きを利用する。先史時代から人類の生活や文化の進歩により生み出され食品の保存性を高める古い知恵の産物である。酒類（アルコール飲料）、酢、味噌、醤油などの醸造食品は、増殖抑制要因の中で、食塩の添加による水分活性の低下、乳酸菌や酢酸菌などによる pH の低下そしてエタノールの生産を利用することより、汚染

微生物の増殖を抑制し、香味を改善されている。(表1)

表1 食品における微生物増殖抑制要因

- | |
|------------------------------------------------------|
| 1. 洗浄（+殺菌）
食品原料（特に野菜、果実など）の段階で有効 |
| 2. 食品成分（栄養成分、エタノールの生成など） |
| 3. 水分活性（芽胞菌は $A_w = 0.9$ 以下）
食塩や砂糖などの添加、食品の含水率の低下 |
| 4. pH
酸の添加、乳酸菌、酢酸菌及び酵母などによる発酵など |
| 5. 加熱（調理、殺菌） |
| 6. 保存温度（販売、流通温度も含む）
冷蔵（冷凍も含む）、常温、加温 |
| 7. 包装形態（酸素の有無）
一般的な包装、真空包装、脱酸素剤の使用など |
| 8. 保存料
静菌剤、日持ち向上剤など |

実際に食品における微生物の増殖抑制要因をいかに微生物安全保証に応用していくか、具体的には次号（3月号）で述べたい。

<文献>

- 1) 松村吉信、微生物制御の基礎と現状、関西大学理工学会誌理工学と技術、Vol. 25、pp29-24(2018)
- 2) 土戸哲明、食品殺菌の微生物工学的研究、日本食品工学会誌、Vol. 10, No. 4, pp. 183 - 190, (2009)
- 3) 子林勝義、危害予防措置と重要管理点の決定の考え、月刊食品工場長、pp70-72(2018).
- 4) 山本茂貴監修、現場必携微生物殺菌実用データ集、サイエンスフォーラム（2005）.
- 5) 厚生労働省「食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）」

家計調査・飲料費支出額

家計支出から見た全国1世帯当たりの食料費支出金額<用途分類>

資料:総務省統計局家計調査報告

	2025年12月 円	2024年12月 円	前年対比 %	2025年1月 ~12月(円)	2024年1月 ~12月(円)	前年対比 %
○消費支出	351,522	352,633	99.7	3,768,006	3,602,915	104.6
○食料	107,937	104,867	102.9	1,077,050	1,020,480	105.5
食料のうち						
果物	3,964	3,849	103.0	40,573	38,293	106.0
菓子類	9,677	9,284	104.2	96,018	89,933	106.8
飲料	5,774	5,615	102.8	68,832	65,687	104.8
酒類	4,698	4,805	97.8	43,326	43,072	100.6
外食	15,812	14,833	106.6	173,365	164,588	105.3
牛乳	1,326	1,287	103.0	15,862	15,895	99.8

家計支出から見た全国1世帯当たりの飲料費支出金額<品目分類>

	2025年12月 円	2024年12月 円	前年対比 %	2025年1月 ~12月(円)	2024年1月 ~12月(円)	前年対比 %
○飲料	5,999	5,821	103.1	70,312	67,225	104.6
茶類	1,264	1,281	98.7	14,715	14,443	101.9
緑茶	373	373	100.0	3,153	3,193	98.7
紅茶	111	112	99.1	893	893	100.0
他の茶葉	166	161	103.1	1,706	1,706	100.0
茶飲料	615	635	96.9	8,962	8,647	103.6
コーヒー・ココア	1,669	1,361	122.6	16,347	13,907	117.5
コーヒー	1,177	919	128.1	9,634	7,890	122.1
コーヒー飲料	422	383	110.2	6,229	5,617	110.9
ココア・ココア飲料	69	59	116.9	482	399	120.8
他の飲料	3,067	3,178	96.5	39,249	38,874	101.0
果実・野菜ジュース	586	618	94.8	7,371	7,603	96.9
炭酸飲料	660	665	99.2	8,129	7,722	105.3
乳酸菌飲料	445	510	87.3	5,467	5,905	92.6
乳飲料	241	239	100.8	2,990	2,831	105.6
ミネラルウォーター	369	326	113.2	4,635	4,558	101.7
スポーツドリンク	73	78	93.6	1,573	1,575	99.9
他の飲料のその他	693	743	93.3	9,081	8,685	104.6

1. 容器別 (KL)		缶=SOT缶+ボトル缶			
容量 ml	2026年1月	前年比%	2026年1~1月	前年比%	シェア-%
リターナブルビン	190	91.2	1,878	91.2	4.0
	200	-	0	-	0.0
	207	68.1	338	68.1	0.7
	242	-	0	-	0.0
その他	0	-	0	-	0.0
小計	2,216	86.7	2,216	86.7	4.7
110~160	10	-	10	-	0.0
300	190	131.9	190	131.9	0.4
350	0	-	0	-	0.0
その他	270	83.9	270	83.9	0.6
小計	470	100.9	470	100.9	1.0
P E T	500	108.1	3,601	108.1	7.6
	1,500	109.4	26,787	109.4	56.8
その他	312	66.8	312	66.8	0.7
小計	30,700	108.5	30,700	108.5	65.1
缶	160	101.5	1,533	101.5	3.3
	250	131.6	3,277	131.6	7.0
	350	74.5	4,331	74.5	9.2
	500	88.1	3,470	88.1	7.4
その他	1,143	134.3	1,143	134.3	2.4
小計	13,754	94.2	13,754	94.2	29.2
合計 (kℓ)	47,140	102.7	47,140	102.7	100.0

2. 区分別 (KL)

区分	2026年1月	前年比%	2026年1~1月	前年比%	シェア-%
1. 水に二酸化炭素を圧入した もの	771	85.3	771	85.3	1.6
2. 果汁・果汁ビューレ・乳又は乳 製品を加えたもの	156	1.8	156	1.8	0.3
3. 果汁又は果汁を印象づける 色及び香りをつけたもの	10,809	-	10,809	-	22.9
4. 1.2及び3以外のもの	35,404	96.8	35,404	96.8	75.1
合計 (kℓ)	47,140	102.7	47,140	102.7	100.0

果実飲料の依頼検査実績

果実飲料2団体

			2026年	2025年	前年対比	2026年	2025年	前年対比	シェア
			1月	1月	(%)	1月～12月	1月～12月	(%)	
直接飲料 (kℓ)	果実ジュース	缶	155	275	56.4	155	275	56.4	
		びん	200	301	66.4	200	301	66.4	
		その他	1,317	1,452	90.7	1,317	1,452	90.7	
		計	1,672	2,028	82.4	1,672	2,028	82.4	17.5
	(果汁入り飲料 (50%以上))	缶	0	0	—	0	0	—	
		びん	0	0	—	0	0	—	
		その他	0	0	—	0	0	—	
		計	0	0	—	0	0	—	—
	(果汁入り飲料 (果肉))	缶	160	88	181.8	160	88	181.8	
		びん	0	0	—	0	0	—	
		その他	0	0	—	0	0	—	
		計	160	88	181.8	160	88	181.8	1.7
	(果汁入り飲料 (50%未満))	缶	119	136	87.5	119	136	87.5	
		びん	176	133	132.3	176	133	132.3	
		その他	7,082	6,291	112.6	7,082	6,291	112.6	
		計	7,377	6,560	112.5	7,377	6,560	112.5	77.3
	果汁入り飲料 (乳・野菜汁) 及び果実野菜 ミックスジュース	缶	0	6	—	0	6	—	
		びん	6	14	42.9	6	14	42.9	
		その他	99	123	80.5	99	123	80.5	
計		105	143	73.4	105	143	73.4	1.1	
果実ジュース・ 炭酸入り 果汁入り飲料	缶	15	0	—	15	0	—		
	びん	216	578	37.4	216	578	37.4		
	その他	0	0	—	0	0	—		
	計	231	578	40.0	231	578	40.0	2.4	
果実ジュース・ 果汁入り飲料 果粒入り	缶	0	0	—	0	0	—		
	びん	0	0	—	0	0	—		
	その他	0	0	—	0	0	—		
	計	0	0	—	0	0	—	—	
容器別	缶	449	505	88.9	449	505	88.9	4.7	
	びん	598	1,026	58.3	598	1,026	58.3	6.3	
	その他	8,498	7,866	108.0	8,498	7,866	108.0	89.0	
	合計	9,545	9,397	101.6	9,545	9,397	101.6	100.0	
き釈用 (L)	果実ジュース		0	0	—	0	0	—	—
	果汁入り 飲料	50%以上	0	0	—	0	0	—	—
		50%未満	8,856	15,681	56.5	8,856	15,681	56.5	100.0
		混合	0	0	—	0	0	—	—
	合計		8,856	15,681	56.5	8,856	15,681	56.5	100.0

炭酸飲料2026年・月別・容器別JAS格付数量

一般財団法人日本清涼飲料検査協会

月	単位	リターナブル瓶		ワンウェイ瓶		PET瓶		缶		合計		前年 対比%			
		数量KL	シェア%	前年対比%	数量KL	シェア%	前年対比%	数量KL	シェア%	前年対比%	数量KL		シェア%		
1	KL	2,216	4.7	86.7	470	1.0	100.9	30,700	65.1	108.5	13,754	29.2	94.2	47,140	102.7
	C/S	479,710	8.6	87.0	81,568	1.5	97.3	3,294,010	59.0	109.5	1,731,155	31.0	96.5	5,586,443	102.7
2	KL														
	C/S														
3	KL														
	C/S														
4	KL														
	C/S														
5	KL														
	C/S														
6	KL														
	C/S														
7	KL														
	C/S														
8	KL														
	C/S														
9	KL														
	C/S														
10	KL														
	C/S														
11	KL														
	C/S														
12	KL														
	C/S														
合計	KL	2,216	4.7	86.7	470	1.0	100.9	30,700	65.1	108.5	13,754	29.2	94.2	47,140	102.7
	C/S	479,710	8.6	87.0	81,568	1.5	97.3	3,294,010	59.0	109.5	1,731,155	31.0	96.5	5,586,443	102.7
前年	KL	2,556	5.6	-	466	1.0	-	28,288	61.6	-	14,602	31.8	-	45,912	-
同期	C/S	551,405	10.1	-	83,834	1.5	-	3,009,548	55.3	-	1,793,269	33.0	-	5,438,056	-

④

2026年容器別JAS実績(直接飲料)

()内は前年対比

	缶		びん		紙		その他		PET		合計
	KL	シェア%	KL	シェア%	KL	シェア%	KL	シェア%	KL	シェア%	KL
1	449 (88.9)	4.7	598 (58.3)	6.3	696 (88.0)	7.3	109 (279.5)	1.1	7,693 (109.3)	80.6	9,545 (101.6)
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
合計	449 (88.9)	4.7	598 (58.3)	6.3	696 (88.0)	7.3	109 (279.5)	1.1	7,693 (109.3)	80.6	9,545 (101.6)
前年 同期	505	5.4	1,026	10.9	791	8.4	39	0.4	7,036	74.9	9,397

※果汁協・清涼飲料検合計

炭酸飲料 区別の格付数量 (統計期間: 2025年1月~2025年12月)

一般財団法人日本清涼飲料検査協会

区別	2026年1月		2025年1月		前年 対比%	2026年1月~2026年1月		2025年1月~2025年1月		前年 対比%			
	びん・PET	缶	計	びん・PET		缶	計	びん・PET	缶		計		
	c/s	kl		c/s		kl		c/s	kl				
1. 水に二酸化炭素を圧入したもの	152,468	0	152,468	184,314	0	184,314	152,468	0	152,468	184,314	0	184,314	83
	771	0	771	904	0	904	771	0	771	904	0	904	85
2. 果汁・果汁ピューレ・乳又は乳製品を加えたもの	2,378	12,529	14,907	664,835	257,389	922,224	2,378	12,529	14,907	664,835	257,389	922,224	2
	29	127	156	6,325	2,116	8,441	29	127	156	6,325	2,116	8,441	2
3. 果汁又は、果汁を印象つける色及び香りをつけたもの	930,414	250,605	1,181,019	0	0	0	930,414	250,605	1,181,019	0	0	0	-
	8777	2032	10,809	0	0	0	8,777	2,032	10,809	0	0	0	-
4. 1.2及び3以外のもの	2,770,028	1,468,021	4,238,049	2,795,638	1,535,880	4,331,518	2,770,028	1,468,021	4,238,049	2,795,638	1,535,880	4,331,518	98
	23,809	11,595	35,404	24,081	12,486	36,567	23,809	11,595	35,404	24,081	12,486	36,567	97
合計	3,855,288	1,731,155	5,586,443	3,644,787	1,793,269	5,438,056	3,855,288	1,731,155	5,586,443	3,644,787	1,793,269	5,438,056	103
	33,386	13,754	47,140	31,310	14,602	45,912	33,386	13,754	47,140	31,310	14,602	45,912	103

⑥